



青少年育成

かづの

平成28年3月31日

第24号

青少年育成
鹿角市民会議

中学生の主張、意見に聞き入り考える 花輪小学校児童による花輪ばやし披露

平成27年度の「青少年を育てる市民のつどい」（青少年育成鹿角市民会議会長・大里廣明）が、11月23日に鹿角市文化の杜交流館文化ホールを会場に開催されました。

はじめに青少年健全育成成功



花輪小学校の皆さんによる「花輪ばやし」

者の表彰、続いて会長挨拶があり、来賓（鹿角市教育委員会教育長、鹿角市議会議員、鹿角市校長会会長）を代表して畠山教育長からご挨拶をいただきました。

青少年健全育成成功者表彰では、栗山廣氏と原田宗悦氏、八幡平地区老人クラブ連合会安全見守り隊を表彰いたしました。（受賞者の紹介は別ページを参照ください。）表彰に続き、中学生による「私の主張発表」を行いました。

発表者2名は鹿角地区を代表して「私の主張2015秋田県大会県北地区予選大会」に出場されています。

また、子ども伝承芸能発表として、花輪小学校の児童21人と花輪ばやし祭典委員会保存育成部のメンバーが「花輪ばやし」を披露しております。

主張発表の一部を紹介します。

八幡平中学校3年 宮本海青さん
「ライバルと共に」

「一度くらい一番になってみよう。」
「陸上部なんだから、負けられないはずだよ。」

この言葉を何度耳にしてきたことか。
私がいつも楽しい学校生活を送るクラスはとても明るい。「明るい」を通り越してむしろうるさいと感じるくらいです。そこには私の小学校時代からのライバルがいます。

彼は自分から積極的に話すタイプではなく、落ち着いた性格です。しかしやる時はやるとても頼りがいのある男です。
小学校高学年。

この頃、身長はクラスでも後ろから二番目。体格には恵まれていません。

6年生では陸上部に所属し、足の速さも一、二を争うまでに成長



八中 宮本海青さん

していました。

陸上部ではキャプテンを任せられ、周囲からも認められるようになりました。

「海ちゃん、今度の運動会では一位じゃない？」
「足がとても速くなったね。」

「郡市の陸上大会でも、いいところまでいくんじゃないの？」
周囲からの声に内心まんざらでもありませんでした。

6年生の運動会当日。
徒競走最終組の隣のレーンにライバルはいました。

彼はスタートと同時に勢いよく飛び出し、トップに躍り出ます。負けまい、離されまいと必死にくらいつきました。しかし、そこから彼はもう一度加速し、私を置き去りにしました。

陸上部のキャプテンとしてのプライドもあり、言葉で言い表せないくらい悔しさと苛立ちが頭の中を駆け巡っていました。

「何で勝てないんだ？」
「力を出し切っていたはずじゃなかったか？」
納得できない自分がそこにはいません。

そして、その思いは中学校に入ってから変わりませんでした。迷わず私は陸上部への入部を決めました。自分がどこまで伸びるのか試してみたいという思いからです。

でも、小学校の部活動とは比べ

ものにならないくらい中学校の部活動は厳しいものでした。

ついて行くのがやっとでした。同級生の男子陸上部員がいなくて精神的には辛い部分もあったものの、これくらいやっていればもしかするともっと強くなれるのではないかという自信ももてるようになってきました。

そんな2年の最後の新人戦。私は走幅跳に出場しました。私はこの大会で初めて優勝しました。走力がついてきていたので

す。
それほど嬉しかったかしれません。周りの人たちもとても喜んでくれました。

自信をもって臨んだ中学3年の体育祭。
結局、3年間の体育祭で一度も徒競走でライバルに勝つことはできませんでした。

友達や家族は皆口をそろえて「陸上部が負けてどうするー」「しっかりしろよ。キャプテン！」しかし、ライバルとの競争を終えたとき、自然と私の顔は笑顔になっていました。

知らず知らずのうちに…。
憎しみさえ感じてもおかしくないのかも知れませんが、むしろ一緒に走れて楽しく思えるほどだったのです。

いつの間にか勝負を楽しむ自分
がそこにはいました。
ライバルがいるから一生懸命に

防ぎよう!! 「大人の地域忘れ 若者の地域離れ 子どもの地域知らず」

